

**令和4年度千葉県水産振興審議会 栽培漁業・資源管理部会
議事概要**

- 1 日 時 令和5年3月16日(木)午後2時00分から3時30分まで
2 場 所 千葉県文書館6階多目的ホール
3 出席委員 委員10名中8名出席
柴田委員、根本委員、石川委員、畑中委員、松本委員、
高梨委員、石井委員、山口委員

4 概 要

(1)「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における令和5年度計画について

このことについて、資料1により、漁業資源課からの説明があった後、原案どおり承認された。

(2)「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における令和4年度実績について

このことについて、参考資料 P1-19 により、漁業資源課、水産総合研究センター、(公財)千葉県水産振興公社、各水産事務所から報告があった。

【質疑応答等】

① 参考資料 P3 について

委 員：マコガレイの異形魚の出現防止の実績について、光を用いた飼育技術は成長促進の効果ばかり着目される場合が多いが、この結果は攻撃を抑制する効果が示された先進的な成果である。こうした技術は他の攻撃性のある魚にも応用できる可能性があると思われる。

委 員：トラフグ親魚の確保について、既往の知見でも産卵生態から性比が偏る傾向があることは報告されているので、今後の参考にされたい。

② 参考資料 P7-8 について

委 員：アワビについて、豊浜の輪採漁場の口開けに立ち会ったが、ほとんど漁獲が無かった。一方で白浜では相当な漁獲があり、その違いの検証と検証を踏まえた適正な漁場の条件はどういうものか、詳しく説明を聞きたい。また、それらを整理して、事業展開ができるようなものにしていただきたい。

水 総 研：良好な漁場の条件ですが、餌料の供給が安定していることが第一

にあり、放流初期の 30mm 程度の稚貝では岩盤に付着している小さい藻類、成長に伴い漁獲サイズに近づくとカジメなど大型海藻があることが必要。造成漁場については、使用している平板が埋没したり時化で拡散してしまうとアワビの生息場がなくなるので、漁場として埋まりにくい場所を選択することが必要。

委員：良くない漁場をより良くするような取組もされているのか。

水総研：平板の洗浄の効果についても実験を行い、洗浄により餌となる付着珪藻や大型海藻の新芽が生えることが促されることを確認している。

委員：平板を動かしたりして手入れをすることは可能なのか。

水総研：手入れが出来る地区と出来ない地区があり、手入れをしている地区の方が放流したアワビの回収率が高い傾向にある。そのため、水産事務所の普及指導員も手入れするよう指導しているが、その地区の状況を踏まえて対応していく必要があると考えている。

委員：今後、輪採漁場として平板を入れるところの選び方や入れた後の管理の仕方など工夫しながらうまく行くように進めるようお願いしたい。

委員：要望としてアワビの輪採漁場は現在、勝浦の豊浜や西部、南房総の千倉や白浜で整備が進んでいるが、館山や内房、御宿やいすみ沖など調査をしながら拡大して行ってほしい。管理の手間があるため、組合も手を挙げづらいと思うが、そこは行政が指導、協力しながら漁場を作っていただきたい。

(3) 本県主要魚種の資源評価・管理について

このことについて、参考資料 P20-36 により漁業資源課から説明があった。

(4) 漁場整備に関する事業実施状況について

このことについて、参考資料 P37-38 により、漁業資源課から説明があった。

(5) 磯焼け対策に関する取組状況について

このことについて、参考資料 P39-40 により、漁業資源課から説明があった。

(6) その他

漁業資源課：マコガレイの緑色 LED の効果の他魚種への応用やトラフグ親魚の産卵生態に関する委員からの貴重な意見について、今後の種苗生産技術開発に活用していきたい。また、アワビの輪採漁場の水揚状況に関する意見について、豊浜の漁場は過去に整備された輪採漁場の水揚状況をもとに、地元漁協、漁業資源課、

水総研、水産事務所で事前に適地選定を行い整備したが、結果は残念なものとなった。勝浦水産事務所からは平板を敷きなおしたと聞いており、状況を再度確認しながら再発防止に努めたい。輪採漁場の拡大への意見についても適地であるかどうか見定めながら今後も検討していきたい。